

ここでは、「働く」「祈る」といった人々の生活の中の営みを題材とした具象彫刻を紹介します。清水良治の「運ぶ人」は、労働の中にある男性の動きを表現した作品です。不安定な姿勢ながら、力強い生命力が感じられます。ロッソの「聖具係」は、スポットライトを浴びることなくひっそりと働く人物のおだやかな表情をとらえ、その内面を見る者に想像させる作品です。マンズーの「枢機卿座像」は、仏像を思わせるような顔立ちと、冠から衣服の裾へと広がる三角形の安定した形態が、神聖さと威厳を感じさせます。川原竜三郎は、「太陽と収穫」で太陽が生む自然の恵みと、その恩恵を受ける人間の関わりを、自らの宗教観を込めて表現しました。

作家により表現は様々ですが、労働や祈りという営みと、それに対する思いを形態に込めて制作しています。「営みのかたち」に刻まれた思いを感じながらご覧ください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	清水 良治	1935~2016	運ぶ人	1975 (昭和50)	43.1×31.6×41.8	ブロンズ
2	メダルド・ロッソ	1858~1928	聖具係	1883	34.5×27.0×18.0	ブロンズ
3	ジャーコモ・マンズー	1908~1991	枢機卿座像	1981-82	109.5×66.9×56.6	黒檀
4	川原 竜三郎	1940~2012	太陽と収穫	1977 (昭和52) 頃	49.5×58.5×32.5	ブロンズ

パブリックゾーン

令和8年度 宮崎県立美術館 コレクション展
令和8年 4月11日 ~ 令和9年 3月 7日

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	材質
1	アルトゥーロ・マルティーニ	1889~1947	アマゾンの死	1935	47.6×35.0×15.7	ブロンズ
2	ノヴェットロ・フィノッティ	1939~	アヌビス1	1988-89	177.0×147.0×53.9	黒大理石